

SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう

目次

- ☆暑気払い感想 2
- ☆自主活動感想 3
- ☆高浜夏祭り感想 4
- ☆虫めがね・お詫び 5
- ☆学習会・活動報告 6
- ☆夏期営業報告 7
- ☆夕会・寄付のお礼 8
- ☆岡本副会長連載 9
- ☆小野塚連載 10
- ☆和栗連載・スケジュール 11
- ☆編集後記 12

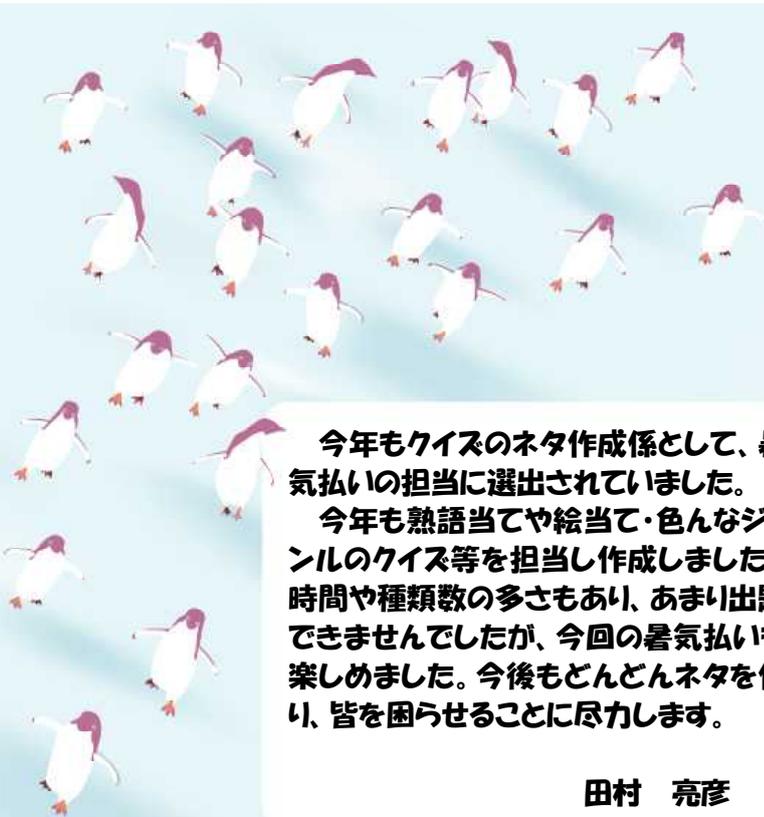
2011年
10月号

10月は「みなと区民まつり」が芝公園の増上寺で行われます。風の子会も参加して来年のカレンダーやアクセサリーなどを販売致します。

多くの売り上げを得るため当会は一丸となり頑張りたいと思います。皆様の沢山のご来店を心よりお待ちしております！

幸 高史

巻頭文



今年もクイズのネタ作成係として、暑気払いの担当に選出されていました。今年も熟語当てや絵当て・色んなジャンルのクイズ等を担当し作成しました。時間や種類数の多さもあり、あまり出題できませんでしたが、今回の暑気払いも楽しめました。今後もどんどんネタを作り、皆を困らせることに尽力します。

田村 亮彦



暑気払い感想

8月6日土曜日、風の子会で暑気払いが行われました。司会は朝生さんと田中先輩と太田さんと田村さんの四人がしました。僕は家から持ってきたほろよいを飲みました。食事はおにぎりとかまぼこと野菜を食べました。おいしかったです。



クイズ大会もしました。僕は雪ダルマと答えました。しかし、外れました。答えは札幌雪祭りでした。田村さんがクイズを出してくれました。

来年も宜しく申し上げます。井出さんが乾杯をしてみんなでお酒を飲みました。

柳川 敬事



自主活動報告

八月十三日（土）午前

九時半～午後三時半まで夏の
自主活動としてお台場にある

「日本科学未来館」に行ってきた。予定では河口湖でしたが、ちよūdお盆の時期と重なり高速道路が混雑し、休憩をとって目的地に向かい、遊んで帰ると時間がかかるので、お台場にある科学未来館に行き先を変更しました。ここには、常設展示として国際宇宙ステーションの居住空間（本物に似せて作ってある）の部屋を観たり、ジオコスモスを観ながらの解説を聞いたたり、本田技研が開発した二足歩行ロボット『アシモ』のショー《十分間》を観て一日を謳歌しました。改めて観るとやはり地球の環境（天気）は広大な宇宙の中の一つであることを感じました。



三木 直人

Pray for Being

神田 浩宣

極東の島国がグレート・ゲームへ突入しようとする前夜、ささやかな砲台が建造された品川台場。今では日本科学未来館が、先端科学技術を受発信している。

真夏の白光に満たされたアトリウムに浮かぶ Geo-Cosmos は、宇宙から見た地球。この星の現在を見せてくれる。居並ぶ私たちの眼前に環太平洋地域が映し出された。そして本年3月11日の巨大地震が引き起こした未曾有の津波が、何重にも何重にも重なり合って、太平洋いっぱいに広がっていった。あの日、大津波による三陸沿岸の壊滅や原子力発電所の放射能汚染が、私たちの生活空間の日常性をおおきく変換してしまった。

Geo-Cosmos 周囲の螺旋通路を上がっていき、宇宙居住棟に入ると、身体がふわりと浮遊したように感じられた。障害者は車椅子に乗っていても、浮遊感を楽しめただろうか。

地球環境を問うセグメントには、ノコギリが置いてあり、障害者が麻痺の手で慎ましく触れると、映像画面の中で、彼の分身たちが森林を伐採し始めた。触れることで、私たちは一つの自然環境に浴しており、技術文明を営む上で環境破壊の加害者でもある、という共通意識が脳裏に刻み込まれた。そして来館した誰もが美しい地球を望んだに違いない。

ミュージアムショップでは、独創的なアイテムが賑やかだった。この時、私は女性障害者と、意思疎通が全くできないでいた。トリックアートはぐるぐる回っていた。スカイツリー模型は、科学の女王を讃えていた。メフィストが言う、「学問をさまよっても無駄だ。」

17世紀、世界の万物がもたらされた西欧で、近代科学も宗教的宇宙観のもとで創造されたが、その誕生に精気を吹き込んだオリエント世界は、今日、暴力によって Chaos へと陥ってしまった。

科学・芸術・社会通念などの普遍性は、つながって共有されることで時空—宇宙—自己を形而上的に相互浸透させ、精神を身体の束縛から解放させる。

創造の風は「知性」という小舟を、「実在」という望洋たる大海原へ漕ぎ出させ、精神を新たな水平へと魅了する感さえ覚えた。

高浜祭り



八月二十一日（日）恒例行事となった高浜夏祭りが、午前十一時半～午後二時まで行われ、当日は生憎の雨だった為出店は、マンションの二～三階（踊り場&通路&会議室）を使って細々と開催されました。祭りといえば、焼きそば・焼き鳥そしてかき氷。高浜オリジナルとしておもちゃ釣り・くじ引き&流しそうめんがあります。そこで私はくじ引き（六等）&流しそうめんをしました。当日は気温が低く、肌寒い一日でした。

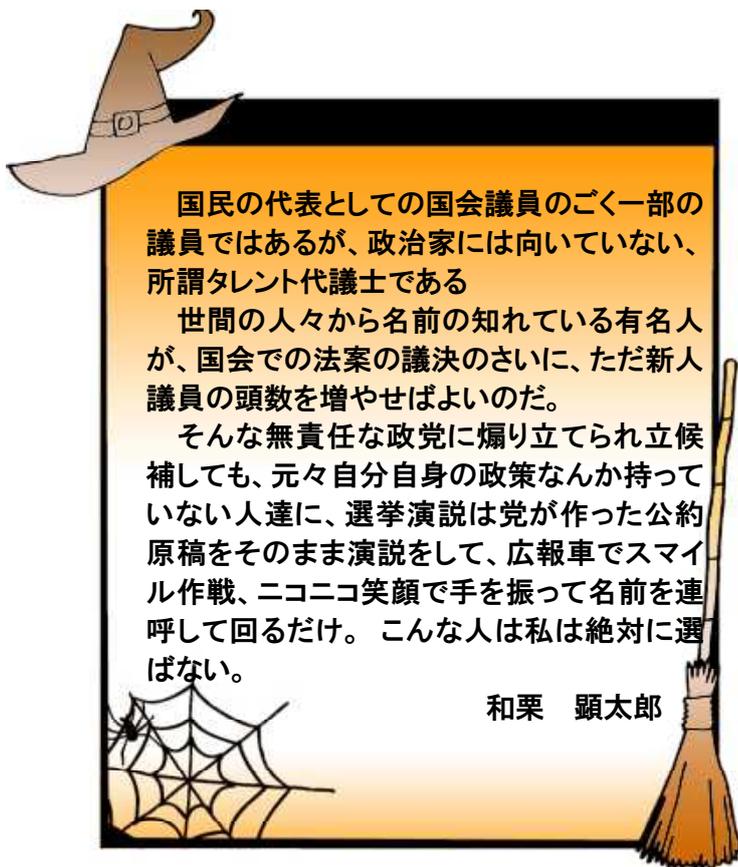
三木 直人

担当の岡本さんの願いも届かず…残念ながら当日は雨が降ってしまいましたが、思っていたよりもお客さんがたくさん来ていて賑やかなお祭りになったと思います。

流しそうめん、焼きそば、焼き鳥、すもも、キュウリの浅漬け、などなどお腹いっぱい食べることが出来てとても楽しい時間を過ごすことができました～

Orange かんぱ～い!!! (かんぱ～いって感じかしらね、てへ(∩∩)) やっぱりオレンジジュースはみんなに人気なんですね。(笑) 来年は晴れた青空の下でメンバーやボランティアの方々、もちろんお客さんも…たくさん来てくれたらいいなと思っています。高塚彩子





国民の代表としての国会議員のごく一部の議員ではあるが、政治家には向いていない、所謂タレント代議士である

世間の人々から名前の知れている有名人が、国会での法案の議決のさいに、ただ新人議員の頭数を増やせばよいのだ。

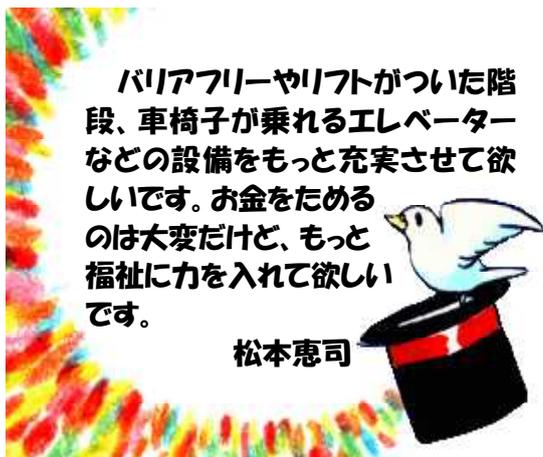
そんな無責任な政党に煽り立てられ立候補しても、元々自分自身の政策なんか持っていない人達に、選挙演説は党が作った公約原稿をそのまま演説をして、広報車でスマイル作戦、ニコニコ笑顔で手を振って名前を連呼して回るだけ。こんな人は私は絶対に選ばない。

和栗 顕太郎



虫めがね

～国会議員に一言～



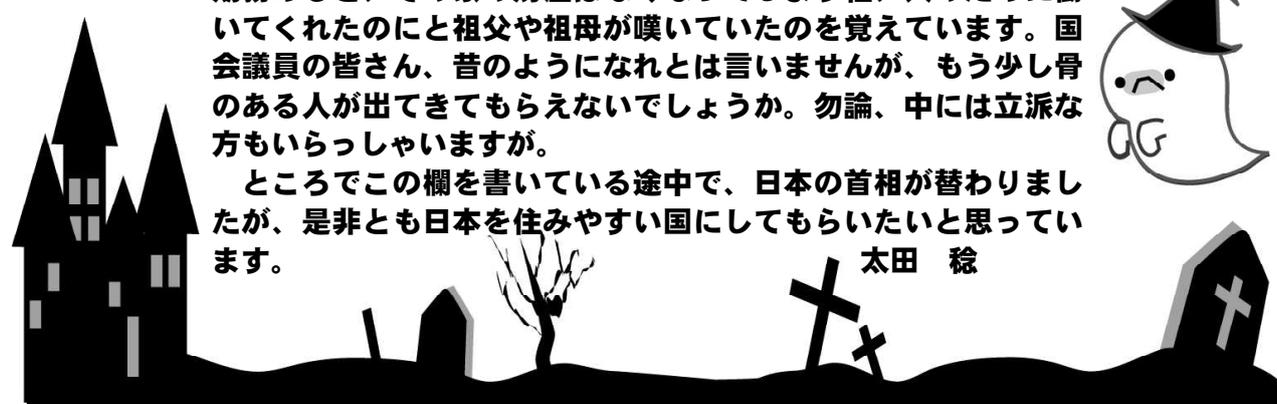
バリアフリーやリフトがついた階段、車椅子が乗れるエレベーターなどの設備をもっと充実させて欲しいです。お金をためるのは大変だけど、もっと福祉に力を入れて欲しいです。

松本恵司

今回の「虫眼鏡」の題材は「国会議員に一言」だそうです、書きたいことが多すぎて困ってしまいます。昔は、国会議員を一期務めると、その家の財産はなくなってしまう程、人のために働いてくれたのにと祖父や祖母が嘆いていたのを覚えています。国会議員の皆さん、昔のようになれとは言いませんが、もう少し骨のある人が出てきてもらえないでしょうか。勿論、中には立派な方もいらっしゃいますが、

ところでこの欄を書いている途中で、日本の首相が替わりましたが、是非とも日本を住みやすい国にしてもらいたいと思っています。

太田 稔



寄付のお礼お詫びと訂正

事務上のミスにより、先月号に記載されなかった方々をここに記載致します。ご迷惑をおかけした方々には心からお詫び申し上げます。まだまだ未熟な会ではございますが、これからもよろしくお願い致します。

早坂 尚子様	細山 公子様	金子 好守様	小久保 薫様	反町 美佐子様	中井 英代様	湯川 揚子様	小林 高史様	波多野 順次・栄子様	伊藤 隆夫様	中山 進様	太田 想三様	染谷 寿美恵様	佐々木 厚子様	島田 美登様
		近藤 綾子様	吉本 通子様	諸角 始子様	飯田 きよ子様	雨宮 蓉子様	諏訪 敏子様	堀 信子様	田中 マサ子様	丸毛 波津様	飯尾 直美様	相蘇 正義様		



～夕会便り～

8月の夕会は20日の一回のみ。この日の夕会では区民祭りについて話し合われたようだ。例年は福祉部会会場のみでの参加だったが、今年はみんなの広場会場の方にも参加しようということになった。福祉部会とみんなの広場、両会場にて何を販売しようか、というようなことを話し合ったようだ。

小野塚 航



賛助会にご賛同して下さった方

芝崎 久夫様 武藤 金一様

寄付を下された方

三木 順子様 井出 義文様

ありがとうございました！！

寄付
の
お礼

風の子便り連載

バリアフリーよもやま話 第3回 「寝言も手話で」

手話は、手や顔の表情などを使う「眼で見る言葉」で、聴こえないあるいはかなり聴こえにくい人（以下、ろうの人、といいます）の重要なコミュニケーション手段です。聴覚障害のある人はみんな手話を使う、手話がわかる、と思っている人が多いのですが、実際は手話を使う人は聴覚障害のある人全体（日本では約36万人）の15%くらいといわれています。手話には大きく分けて2種類があります。先天ろうの人や、両親がろうの人が多く使う手話は「日本手話」と呼ばれ、英語や日本語と同じように独自の文法を持つ独立した言語です。単語は手の動き、形、位置などで表されます。先天ろうの人は最初に覚える日本手話が第一言語で、後から学校などで覚える日本語は第二言語となることがあります。したがって最も流暢に使えるのは日本手話で、日本語の読み書きはいささか苦手という人もいます。一方、単語は手話単語を使うけれど、文法は日本語のものを使う「日本語対应手話」がありま

す。聴こえる人が手話サークルなどで学ぶ手話の多くはこの「対应手話」です。聴こえる人が声を出しながら手話を使う場合、声は日本語文法で手は手話文法というのは難しいので、どうしても対应手話になります。テレビなどで手話通訳の人が使っているのも対应手話が多いようです。日本手話が第一言語である、ろうの人は、もちろん対应手話も理解しますが、「日本手話」に比べるとわかりにくいという人もいます。日本手話が第一言語の人は、ものを考えるときも手話で考えますし、寝言も手話で言うので、寝ているときに手が動く人もよくいるそうです。寝言をたくさん言う人は朝起きたら手が疲れているでしょうね。ろう学校では教科書を黙読しなさい、と言われると思わず手を動かす生徒がいます。これは手話によって理解を深めようとしているのだと思われま

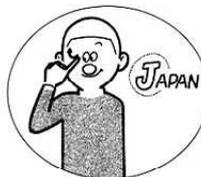
す。ところで、「手話って世界共通なんでしょうね」とよく聞かれますが、実際は日本語、英語、フランス語などがあるように、手話も世界各国別々のものがあるのです。そして各国に、それぞれ独立言語としての手話と対应手話の両方があります（世界共通なものとしては国際手話があり、国際会議のときなどに使われています）。もちろんある単語を表す手の形などはそれぞれ異なります。たとえば日本手話では「こんにちわ」は両手の人差し指をまげて向かい合わせ、お辞儀をしているような形で表しますが、アメリカ手話では敬礼のようにします。とはいえ、異なる手話同士はまったく通じないのではなく、同じものもありますし（たとえば「私」は日本もアメリカも自分の胸を人差し指で指します）、顔の表情や身振りなども加えて話していると、お互いにかなりわかるようになることもあるようです。世界中の人が手話を使うとしたら、もっともっとお互いに理解し合えるかもしれませんね。



日本 Japan | 1

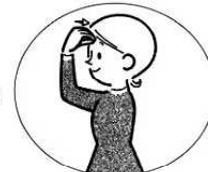


●両手2指を開いてつけ合わせ、左右に引き離しながらつまむ（日本の地形）



アメリカの一部では...
右手小指で目尻を跳ね上げる

タイでは...
ずぼめた右手5指を額に当てる



岡本 明

わたるのドミトリーライフ

【ドミトリーとは英語の dormitory つまり寮という意味】

「思ひ出ラブソディ part III」

大学を卒業して15年弱になる。それでもまだ当時の仲間と付き合いが続いているというのは、僕にとって彼らが欠かせない存在だからであり、彼らにとっても僕が同様の存在だからなのだと思う。そんな風に思える相手と出会えることは、生きていく中でも重要な意味を持つ。

僕がとても尊敬し、一生付き合っていきたいと思っている先輩がいる。本編の中でも何度も登場しているトミ先輩だ。卒業後、先輩は大阪へ帰ってしまったが、僕が大阪に訪ねに行ったり、先輩が仕事の出張のついでに会いにきてくれたりと今でも年に数回は会って交流を深めている。

僕が大学を卒業して間もないころ、トミ先輩から遊びに來いと誘われた。卒業後の先を特に決めていなかった僕はすぐにその誘いに乗った。数日分の着替えをまとめてバッグに放り込み、ちょうどその頃に関西に戻る予定だったイチと話を合わせ、イチの車に乗り込んで西へと向かった。神戸に着きトミ先輩と合流する。イチと一緒にトミ先輩宅へと向かう。そこは、公団住宅でトミ先輩が一人で住むには少し広すぎる気がした。「よう来たな」「やっと卒業できました」「うんうん、よう頑張ったな」僕の頭をポンポン叩きながらいつもどおりに温かく迎え入れてくれた。

それからしばらくの間、トミ先輩の部屋で過ごすことになった。初めは3日か4日くらいのつもりだったのだけれど、1週間になり10日になり、結局2週間もトミ先輩の部屋に住んでいた。トミ先輩がちょうどその頃にそれまで勤めていた仕事を辞めて、次へのステップへと向かう時期だったということと、僕も大学をやったの思いで卒業し、次へのステップを模索していた時期だったということが、たまたま重なったために2週間も滞在できたのだ。

日中はあちこちドライブして回り、夜はグラスを交えて語り合う。トミ先輩はとにかく運転好きな人だったので、六甲山を登ったり姫路城を見に行ったりとあちこち駆け回った。夜はビールを飲みながら果てしなく語り合った。学生でも社会人でもない、中途半端な状況というのは人を不安にさせる。暗中模索な闇の中、次へのスタートラインを自分自身の目で探し、突き進まなければならない。そんな頃だった。

その頃にはすでに神戸に戻っていたハラ（33話に登場）もたまたま顔を出して、トミ先輩と3人で飲んだりもした。ハラは実家に帰って元気に暮らしているようだった。相変わらずのトミ先輩との漫才のような掛け合いも健在だった。今も明るく能天気に見えるのだろうとたまたま思い返す。

そんな風にして2週間が経ち、トミ先輩も僕もそろそろ現実の世界に戻らなければならない事を思い出した。僕はまだ卒業後の行き先を何も決めていなかったけれど、トミ先輩は次の働き場所の目処をつけたようだ。そうなればいつまでもトミ先輩の部屋に厄介になっている訳にもいかない。帰り仕度をまとめ、新幹線で帰ることにした。トミ先輩に新神戸駅まで送ってもらい、新幹線に一人乗る「濃い2週間やったな」がっかりと握手しながら僕も応える「本当に楽しい2週間でした。これからまた東京で頑張ります」トミ先輩は、僕の頭をまた軽くたたいた「また来い。新幹線でくれば、またこうして駅まで迎えに来てやる」「うん。また絶対行くよ」

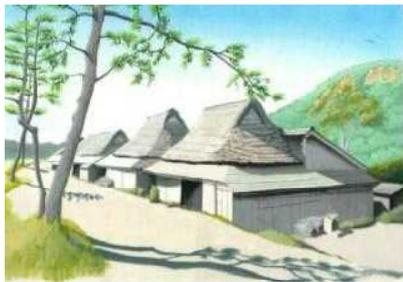
そうして新幹線に乗り、東京へと戻った。缶ビールを飲みながら車内から眺めた富士山の美しさは、今でも鮮明に憶えている。

～ 本編に戻る ～

あんパン物語・第三回

さて、今夜泊まる宿屋を探さなければ、靖衛門が辺りを見回しても異国の人がばかりで、宿屋は何処にあるか聞くことも出来ず困っている。服装は異国の服だが、背が低く頭にはちよん髷と言うアンバランスなスタイルの男が近づいてくる。「あ、日本人だ」と思わず声をかけた。「はい、何ですか？」男が立ち止まるとぺこりとお辞儀をした。「拙者江戸から来た者で木村靖衛門と申すが、宿屋を何処かお教えくださらぬか。」「それはお困りでしょう、私の名は義兵と申します。この辺は横浜村と言う漁村でして、此所の海岸は少し行くと急に深くなっている。それで異国の大きな船が停泊できるし、下田や浦賀よりは江戸に近いので、此所横浜村を港にして街を作り、貿易を始めました。この街では彼等の掟があつて、日本（幕府）の掟なんか全然通用しない、勝手に自分たちだけの掟を決めて治安を保つて自分たちの社会と生活を守っているのです。」

〜栗 あきら〜



スケジュール

十月八日・九日（土・日）

港区、区民祭り

十月二十二日・二十三日（土・日）

全国きょうされん滋賀県大会

十月三十日（日）

ヒューマンプラザ祭り



